

賃貸契約締結が可能となった。企業が使用する用地すべてを賃貸（事業用定期借地権）し、賃貸期間は10年以上で20年を限度としており、賃借料は、加西南で月額平均平米当たり約71円、加西東で約54円になる見込みである。

## 賀茂地区での幼児園

**Q** 賀茂地区で実施される幼児園での保育内容とそれに至った経緯は。また園児、保護者、行政それぞれのメリット・デメリットは。

**A** 平成16年度開設の幼児園候補地を平成14年度から検討してきました。プロジェクト委員会では日吉地区、泉地区、九会地区、賀茂地区の4カ所が候補地として協議され、最終的に賀茂地区を候補地として決定するに至りました。その理由としては、①平成7年築と園舎自体が新しい。②また定員70名以上の施設として建てられ余裕がある。③幼稚園と保育所とが近接している。④道路を挟

んでいるが交通量も多くなり安全である。⑤就学前児童の減少及び今後急激な自然増、社会増も考えられない。⑥私立保育所との競合がない。以上の6つが大きな要因です。

形態については、現在の幼稚園を保育所内に移し、幼児園とします。幼稚園と保育所を組み合わせ、いわゆる短時間保育部（幼稚園）と長時間保育部（保育所）との両方を兼ね備えた2本立てで考えています。

対象年齢は、短時間保育部は5歳児、長時間保育部は0歳から5歳児が対象で、5歳児で2時以降も延長して保育を必要とする園児については、保育に欠けるということで長時間保育部を選択していただくこととなります。

保育料については、短時間保育部は一律負担、長時間保育部は所得に応じた負担を考えています。短時間保育部は夏季休業がありますが、一定時間を設定して午前中の夏季特別保育を検討中で、利用日数に応じた保育料の負担を基

本に考えています。保育内容については、同じ年齢は同じ内容の教育、保育が受けられるように考えています。幼児園では幼児の発達段階に応じ一貫した教育、保育を行い、地域の子供の成長、発達を促進するように考えており、独自のカリキュラムのもと、3歳児からの早期教育に取り組み、5歳児に関しては短時間、長時間保育部どちらにいても午後2時までは幼稚園教育要領に基づく幼児園独自のカリキュラムで、2時以降は保育指針の内容に沿った保育が受けられるように保育内容検討委員会のメンバーとともに検討しています。

市の負担、保護者の負担の関係ですが、市の負担については大幅な軽減はないと考えています。保護者の負担については、所得に応じた負担ということになり、いまの幼稚園の授業料に比べると安くなる人もあれば高くなる人も出てきます。

行政及び保護者にとってのメリット、デメリットについては、行政にとっては幼児園創設により職員減が図れるこ

とはいまのところないが、幼稚園での預かり保育、保育所での延長保育などに対して職員が1カ所対応できること等効率のよいサービス、また同じ園舎で行うため各職員のパワーアップ等がメリットである。また、保護者にとつては、①就学前教育と保育の一本化ができる。②子育ての一貫性が図れる。③複数年の就学が可能。④少子化や女性の社会進出の中で、延長保育や一時保育、預かり保育などの多様化する子育て支援の強化が図れ子育ての継続的な見守りができる等が挙げられます。

## ゴム製起伏堰

**Q** ゴム製起伏堰の更なる軽減に伴う農家負担の軽減について

**A** 基盤促進整備事業、並びに県営での整備等も視野に入れながら、農家負担の軽減を図るため3月28日にゴム製起伏堰等連絡協議会が設立されました。市内のゴム製起伏堰については、昭和51年の災害により万願寺川

に設置された井堰の損傷が特に激しく、早急に改修をする必要があると考えています。今後は、新たに設置された協議会と協力し、関係機関に地元負担の軽減に向けて努力します。

また、別途県や市の担当者による検討委員会の設置を検討中で、社土地改良事務所、そして県の社土木事務所の加西事業所、そして地域振興部農村整備課の3者で、既に昨年の暮れに第1回目の会合を開催しました。今後ともこの会合を継続しゴム井堰の修理に対する検討会を開催する予定です。

